

## 「旬」の植物紹介(12月編)

ツルウメモドキ *Celastrus orbiculatus* Thunb. (ニシキギ科

ツルウメモドキ属)

俳諧では「秋」の季語だが、今年は冷え込むのが遅く、12月になって美しい実を見られるようになった。



←ツルウメモドキ  
の実  
(2021.12.3 岡山市  
北区)

この美しい実を間近に見ようと、種を採って芽吹かせたことがある。しかし、花が咲くばかりで実をつけることは無かった。のちに雌雄別種ということが分かって、挿し木にしてやっと実を見ることが出来るようになった。

生け花やリースの材料に重宝すると紹介されているが、リースにすると飾り付けをしているそばから、まわりのオレンジ色の部分がハラハラと落ちてしまい思うようにならない。しかしながら、このオレンジと赤のコントラストには捨てがたい魅力がある。

人工造林地では、「木に巻き付いて悪さをする」というので伐られてしまう。このため、山では見ることが少なくなってしまった。

名前の由来は、花も実も梅には似ていないが、つるから伸びた枝は「梅の枝」に似ていることから付けられたという。



雌花



雄花

↑ツルウメモドキの花  
(植物雑学辞典から転載)

山口県防府市には、直径40cmの「麻生のツルウメモドキ(天然記念物)」が現存しているとのこと。山口県を訪れた際には一度見てみたいものだと思っている。

引用:岡山理科大学「植物雑学辞典」  
山と溪谷社 「野草の名前・秋冬」  
川尻秀樹著 「読む植物図鑑2」